

自 己 評 価 表

愛媛県立松山工業高等学校（全日制課程）

学校番号 24

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を養成する。	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣の確立と自律心の育成 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 探求心の涵養と創造力・実践力の育成 4 資格取得の実践とキャリア教育の充実 5 部活動の充実と個性豊かな人間性確立 6 地域との連携とボランティア活動推進
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	教科指導の充実	ICTを活用した授業を、全教員の90%以上が実施できることを目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	全教職員がICTを活用した授業（Teamsやロイロノート、classi等）ができるよう年2回以上の研修を行い、ほとんどの教員がICTを活用した授業ができるようになった。	本年度から、新しい教育課程・評価方法がスタートし、ICT活用等を利用した授業改善を模索中である。ICT課や図書研修課等と連携し、ICT研修や授業改善、授業評価方法について引き続き検討していくとともに、研究授業等でも実践できる体制を構築していきたい。 また、研修を行い、各教科でEILSを利用したテストを行うための体制を整えたい。
		「分かる授業」と「考える授業」を展開していくために、生徒用授業アンケートの回答欄「説明が分かりやすい」と「生徒の反応を大切にしたい」の回答率90%以上を目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	1月実施の授業評価アンケートの結果は、「説明が分かりやすい」で（そう思う）と（ややそう思う）が全体の94.1%、「生徒の反応を大切にしたい」で（そう思う）と（ややそう思う）が全体の95.5%となった。その他の項目においても90%以上が肯定的な回答をしており、生徒の実態に即した授業、興味・関心を喚起させる授業の実践ができています。	生徒の学習意欲をさらに向上させるために、「分かる授業」の実践に努めることとICT機器の活用能力向上を推進する。感染症や非常変災などで臨時休業や学級閉鎖などがあっても自宅で学習できる環境を整える。また、授業は真面目に受けるが、やや受け身な生徒が多いことから、主体的に学習に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力を向上させる指導を実践する。
	資格取得の充実	各種資格・検定試験の合格者総数5500人以上を目指す。 A：5500人以上 B：5000～5499人 C：4500～4999人 D：4000～4499人 E：3999人以下	C	12月末での合格者総数が3925人で、コロナ禍による受験機会の減少により、例年より少なくなっていたが、全国と比較すると高くなっている。最終的には5000人程度の合格者総数は達成できそうだ。（[R5.3.17付] 4,928人）	資格取得は、進路選択のための指標にもなるので、目標を持って計画的に考えさせる。 2年生の資格取得状況が、取得総数やジュニアマイスター顕彰取得にも大きく関わってくるため、早い段階での資格取得を奨励する。
生徒指導	基本的生活指導の充実	自ら進んで正しい挨拶のできる生徒を育成していく。それに関する生徒自己評価の質問事項の回答率100%を目指す。 A：100% B：90～99% C：80～89% D：70～79% E：69%以下	B	約96%の生徒が、礼節を重んじて相手に合わせた正しい挨拶ができていると回答している。登校時に正門で自転車を降り一礼する「正門一礼」も伝統的に定着しており、挨拶の大切さを理解している生徒が多い。	挨拶は、基本的な生活習慣や対人コミュニケーションにおいて重要なスキルであることを生徒たちが理解し、自ら進んで挨拶ができるように、学校生活のあらゆる場面で指導していきたい。 また、生徒が主体的な高校生活を送れるように、生徒会活動と連携した取組も引き続き行っていきたい。
	交通安全指導の充実	登下校指導や交通安全教育の充実により、交通事故発生数0件を目指す。 A：0件 B：1～19件 C：20～39件 D：40～49件 E：50件以上	C	交通事故発生数は、昨年度（28件）と同数程度である。	朝の登校指導、生活指導、校外自転車指導、ホームルーム活動、事故後の指導等のあらゆる教育活動において、交通安全に留意した生活を送れるようにしていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A : 100% B : 95~99% C : 90~94% D : 85~89% E : 84%以下	A	求人数は昨年度より10%増加し、コロナ前よりも増加している。1次合格率も97.8%で高い合格率となり、最終的に100%の就職率を達成した。	近年、面接試験で高度な学力や体力・主体性を求められるようになった。人手不足で合格率は高くなっているが個人の能力の向上を図っていく必要がある。
	進学指導の充実	生徒が自主的に学習できる環境を整えることにより、国公立大学合格者15名以上を目指す。 A : 15人以上 B : 10~14人 C : 6~9人 D : 1~5人 E : 0人	B	国公立大学合格者は10名で昨年度より少なくなった。愛媛大学工学部への希望者が3名と少なく、実際の来年度愛媛大学入学者は2名と例年より少なくなっている。	国公立大学工学部への進学希望者を増やす必要がある。高い専門性を有する工学部への進学は、本校生徒にとっても将来の有用性があることを丁寧に説明する必要がある。
特別活動	特別活動の充実	全国大会上位入賞10部門以上を目指す。 A : 10部門以上 B : 8~9部門 C : 6~7部門 D : 3~5部門 E : 2部門以下	A	体育的な部のボクシング部、自転車競技部、少林寺拳法、陸上部、文化・生産的な部のメカトロ部の各10部門で全国大会上位入賞を果たした。	体育的な部活動では、環境整備、栄養管理指導研修会等の機会を多く設けるよう計画している。また、文化・生産部の部活動では、下級生も全国大会へ同行させ、大会の雰囲気、作業手順の研修、技術の習得等、学びと経験の場を多く持たせ、次年度以降の入賞へ結びつけるよう対策している。
工業指導	社会貢献の充実	「松工ものづくり社会貢献プロジェクト」として、ものづくりを通じた社会貢献を各学科一つ以上行う。	A	全8科とも「課題研究」を通して、一つ以上の社会貢献を目指した活動を実施している。また、地域との連携を図ることで、生徒達の世界貢献に対する意識が高まっている。	生徒の主体性を育むために、次年度も継続して取り組み、内容を充実させた研究発表会を実施させる。また、ホームページ等を活用して情報発信を行う。
人権・同和教育	人権教育の充実	松工人権宣言の100%の周知を目指します。 A : 100% B : 90~99% C : 70~89% D : 50~69% E : 49%以下	A	各ホームルーム教室に「松工人意見宣言」を掲示し、人権・同和教育ホームルーム活動やショートホームルームなどを通じて、周知の徹底を図った。12月に実施したアンケートで「知らない」と回答した生徒には、学習会を開いて周知と理解を図り、目標は達成できている。	来年度も100%の周知を目指していき、生徒が楽しく有意義な学校生活を送れるように、人権・同和教育の充実を図っていききたい。
環境整備	奉仕活動の充実	各クラス・部で、年1回以上の奉仕活動を行う。	A	今年度も、各ホームルーム単位で校内外の奉仕活動が行われた。校内の清掃も行き届き、花が身近にある学校になっている。	各教棟の壁や廊下をきれいにしていきたい。ポリッシュャーや高圧洗浄機などの清掃道具も充実させたいと考えている。また、花がいっぱいある学校にし、生徒にとって気持ちの良い学習環境が整うよう努力していきたい。
業務改善	職場環境の整備	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害0名を目指す。	B	定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害は0名であった。また、テレワーク等の働き方改革に着手する教職員も増え、勤務時間短縮が可能となった。	土日の部活動指導時間がまだ多いため、今後効率的な指導方法について検討し、勤務時間の軽減に努められるようサポートしていく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。